

引用の書き方

2021年1月

白百合女子大学図書館

? 引用の書き方

本文で参考文献を引用する場合の書き方を紹介します。

※一般的な書き方です。具体的な指示がある場合はそちらに従いましょう。

直接引用

■引用元の表現をそのまま引用する場合、引用箇所全てを「」に入れる

例:

藤田によれば、参考文献の書式術の要件とは「識別性のある必要十分な書誌要素がかかっていることがある。」(藤田、2009)

間接引用

■引用元の表現を加工して引用する。

“と述べている”などの言葉を文末につけ、引用元の意見の範囲を明確にする

例:

藤田は、識別性のある必要十分な書誌要素が書かれていることが参照文献の書誌記述の要件であると述べている。⁽¹⁾

.....本文.....

注(1) 藤田節子『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』日本アソシエーツ株式会社、2009。

ブロック引用

■長い文章(3行以上が目安)をそのまま引用する場合は本文との間に1行あけ、全体を3~4文字、字下げする

例:

参考文献の書式術の要件について、藤田は次のように述べている。

○○○
3文字 ↑ 1行
結局のところ、前に述べた参照文献の役割を満たすためには、出典には「誰が」「何というタイトルで」「いつ」「何という媒体に」発表したかが、どんな分野の読者にも明確にわかればよい。そして、誰でもが、その参照文献を読めば、入手しようかどうかの判断が付き、その文献に迅速にたどり着ければよいのである。これにつきる。(藤田、2009)